

「災害から生き抜くために、今、わたしたちができること」シリーズ2 イメージしてみよう！阪神淡路大震災と同じ「震度7」の地震が起きたら、どうなるだろう？

直後 → 数分後 → **数時間後** → 翌日 → 数日後 → 数週間後 → 数か月後

地震発生

今回は、この時の状況・対応を紹介します



学校にいるときに発生したら…

自宅にいるときに発生したら…

数十分後

避難場所に避難

先生たちが、みなさんの安否確認・負傷者確認を行います。休み時間や部活動時も先生の指示によって避難します。不明者がいれば、校舎内に残っていないか、各教室やトイレにも探しに行きます。

* 避難場所は？

* 避難所は？

数時間後

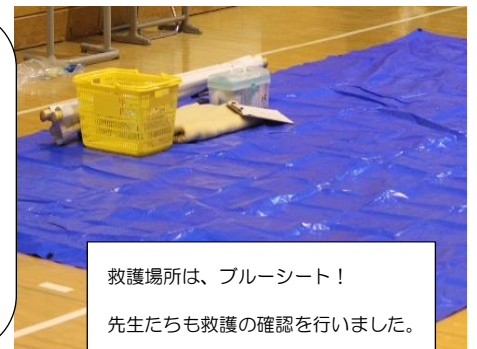
下校・引き渡し

年度当初に、保護者の方に提出していただいた「引き渡しカード」をもとに、引き渡しを行います。保護者と連絡がつかない場合は、学校待機となります。

避難場所：命を守るために緊急に避難する場所
避難所：災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在することを目的とした施設



1月17日に実施した「地震避難訓練」より1年生は、この絵のように制服で頭部を保護しながら避難できていました◎！！上靴のかかとを踏むのも絶対ダメ。当時、現地災害対策本部の一員だった校長先生の「五感」の話から、体験しないと分からないこと、でも知ろうとすること・自分事と思って備えることの大切さを感じました。



救護場所は、ブルーシート！
先生たちも救護の確認を行いました。

翌日

ライフラインの復旧は…？ どうする？ 生きる上で必須の「食事」と「トイレ」

数日後

	電気	水道	ガス
阪神淡路大震災 (H7.1.17)	6日	90日	84日
熊本地震 (H28.4.14)	5日	7日 (約9割)	15日



阪神淡路大震災では、震災から6日目の1月23日には1153の施設に31万6678人が避難されていました。一瞬にして住まいが奪われ、学校などに難を逃れるしかありませんでした。神戸市では7人に1人が避難し、想定を超える避難者が出ました。プライバシーもパーソナルスペースもない状況です。当時の様子をネットで検索すると映像が出てきます。被害状況や避難所の様子を知り、地震が起きると生活全般においてどうなるかをもう一度考えてみましょう。